

学校訪問 15

地域ボランティアとともに

巨瀬小学校

巨瀬小学校（巨瀬町・赤木保弘校長）は、全校児童40人の小規模校です。同校は、「強い心・やさしい心で学び合う子」を教育目標にして、さまざまな活動を行っています。



長い道のりも、話をしながら歩けば、あっという間です

による学校支援ボランティアを行っているもので、公民館の地域ネットワークを活用し、「とにかく学校へ行ってみよう」と誘い合いながら気軽にボランティアに参加してもらっています。

平成21年度には、このボランティア活動を、13種類の内容で、33回行っていただきました。

今年度は、4月30日の春の遠足で、巨瀬歩く会のボランティア15人に引率をお願いしました。高学年は祇園寺まで約6.5キロメートル、低学年は高羽根神社までの約4キロメートルの道のりを子どもたちと話をしながら、約2時間、一緒に歩いてもらいきました。「歩いて行くときに坂ばかりでしんどかったけど、ボランティアの人とクイズで盛り上がりました」と3年生の尾上航汰くん。弁当のあと、バレーボール、フリスビー、宝探しなども楽しみました。

また、9月26日(日)の運動会で披露する「祇園踊り」の練習でも、祇園踊り保存会の皆さんに



一緒に食べる弁当は、とてもおいしいです

指導をしていただきました。6年生の森本江津子さんは「お手本を見せながら、やさしく丁寧

文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準じる成績を収めた人・団体を紹介します。

◆大月生美さん
高梁小学校6年 倉敷ジュニアソフトテニスクラブ
全国小学生ソフトテニス選手権大会（8月5日～8日・北海道旭川市）に出場。「昨年に引き続き4回戦まで勝ち上がった。これからは頑張りたい」

「地域の人が学校活動を支援してくださることによって、教員の負担が減り、児童とふれあう時間が増えました。学校としても地域の人を知るきっかけになります。お互いが協力することによって、地域も学校も元気になっていくと思います」と赤木校長。

◆高梁クラブ
全日本6人制バレーボールクラブカップ
男子選手権大会（8月5日～8日・熊本県山鹿市）に出場。「来年も出場して今年以上の成績を残したい」（飯田主将）



備中神楽の魅力为全国へ

成羽備中神楽育成会

「しっかりと足を曲げ、腰を落とす。」成羽神楽館に声が響きま

備中神楽（国重要無形民俗文化財）の保存、伝承、後継者育成を目的とした成羽備中神楽育成会（川上哲会長）は、昭和63年に結成。3歳から高校生までの30人が、毎週水曜日の午後7時から午後9時までの2時間、練習で汗を流しています。公演は、イベントや老人ホームへの慰問など毎年50～60回行い、大阪や四国まで遠征することもあります。

8月21日には、日本青年館（東京・新宿）で開催された「第12回全国こども民俗芸能大会」（全日本郷土芸能協会主催）に中国・四国ブロック代表として出演しました。大会には、全国から選考された獅子舞、囃子などの保存会7団体とインドからの1団体が出演。

同育成会は、出演団体の最後を飾る8番目に登場。備中神楽の中でも特に人気のある



成羽神楽館での練習

「大蛇退治」を胴2体、頭4つを用いるアレンジをして披露し、神楽のすばらしさを全国へ発信しました。

素戔嗚尊を演じた吉田佳司君(9)は「舞台では、緊張したけど練習で習ったことは、すべてでできました」ときっぱり。「これからはずっと神楽を続けていきたいです」と目を輝かせます。

会員を指導する大塚芳伸さん(59)は「子どもたちには、芸を習得することはもちろん、礼儀作法を習ってほしい。基本を忠実に守って、これからも精進してほしい」と話します。

今後も10月31日(日)の第25回国民文化祭・おかやま2010「神楽フェスティバル」など多くのイベントに出演する予定です。



全国こども民俗芸能大会の様子